

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
平成30年度第2回博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規定に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されている。

委員は13名で、任期は2年となっている。うち1名は一般公募により選出されている。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催している。

博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

平成31年3月27日（水）14時00分～15時40分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

大月光司委員，陶慶一委員，染川香澄委員，田切美智雄副委員長，田中ひとみ委員，中原常雄委員，藤原早苗委員，水嶋英治委員長

※事務局出席者

横山一己館長，小川均参事兼副館長，北條薫管理課長，泉水正和企画課長，稲葉伸一郎教育課長，中寫政明資料課長，小池涉首席学芸員，池澤広美首席学芸員，小幡和男首席学芸員，山中久司主査，吉田典子主査，芦川孝明係長，横山光大主任，鶴沢美穂子副主任学芸員，松浦卓也主事，福田彩香主事

5 議事概要

(1) 議案説明（事務局）

議題

- (1) 平成30年度後期事業の報告について
- (2) 平成31年度事業計画について
- (3) 予算・決算などについて
- (4) 中期計画2020について
- (5) その他

(2) 質疑・意見交換

○議題 (1) ～ (4) について

A 委員：

中期計画 2020 について、ベースを共有していないので難しいが、目標の「茨城の人と自然のハブ・ミュージアム」については、ここで独自に考えて県外の博物館に声をかけていくやり方なのか、県内で話し合うのかがわからなかった。それによって大きく変わってくる。「新時代のチャレンジング・ミュージアム」については、県の新しい目標にも対応しているとのことだったが、UNESCO や ICOM などとどんな関係性を持つのかということもどんな考えがあるか教えていただきたい。

議長：

目標を設定するのは良いが、達成するためのプロセスを明確にして欲しいということですね。

事務局：

ハブ・ミュージアムには既になっていると思う。科学研究作品展を当館で行ったり、生物多様性センターや大学、国立科学博物館との協力をしたりしているが、それらを一個のまとまりとして、ここはどのような役割をしなければならないのかを議論して進めていきたい。チャレンジング・ミュージアムは、何か新しいことを入れたかった。他の県博と一緒にあって、何ができるか考えたい。

A 委員：

東京の方では、海外に向けて文化財を活用しようという大きな動きがある。東博と科博

は国からの要請で夜間開館を延長した。三重県博は夜間開館をやめた。中央と地方に大きな開きがある。

事務局：

こちらの博物館では、夜間開館をするつもりは無い。

B 委員：

中期計画は同じものが焼き増しされていることが多いが、前回と変わっているところはきちんと考えられているのが見え、とても良い傾向だと思う。進化基本計画を立ててから中期計画 2015 を立てるまでが 10 年だったが、2015 から 5 年ごとに更新にした理由を教えてください。

事務局：

大きな目標を立てて、その他を少しずつ達成していくために 5 年にした。10 年だと少し長い。また、中期計画 2015 の目標は高すぎて、達成するには予算が少なすぎる。常設展示のリニューアルの予算要求はしているが、予算化できていない。予算が少なくてもできることに変更して、第 1 展示室は小規模な更新にして、昨日オープンした。目標は簡単ではないが、大きな目標と別に、できることから少しずつやっていきたい。

B 委員：

駐車場のトイレが綺麗に改修されていて良かった。少し窮屈だが。子供用便座もあり、心配りがされていて良いと思った。こちらの館は、テーマパーク的な要素があるのが素晴らしい。しかし、その一方、目標にもあるように、本来やるべき研究が企画展でおろそかになるのは良くない。バランスが大事。里山で自然保護をしているが、外来種など、自然の問題は我々の生活を脅かす問題になる。各地で活動している団体や学校、研究機関と連携を取って、情報収集をしていくことも博物館の使命である。情報の一元化、集約化、データベース化していくことと、自然の現状を人々に伝えることの両方に尽力していただきたい。

事務局：

連携は、これ以上無いほど、頑張っていると思う。

C 委員：

立場的に、「楽しく学べる」というところを中心にお話ししたい。学校での利用では、遠足などにフレキシブルに対応していただけてありがたいと思っている。博物館の利用方法も外向けに発信して下さっているのありがたい。学校の先生はせっかち。明日の授業の

ネタを博物館で探すとき、すぐに利用できる案内があるといい。自由研究では、この研究ならこういうところに聞くと良いよというアドバイスがあると、もっと勉強したい中学生には良いと思う。今、教員は大量採用の時代で、自然を学んでいない教員も多いので、教員研修の場としても活用させていただきたい。

事務局：

教員向けのハンドブックを現在ホームページで公開しているが、どの程度使用されているかは把握し切れていない。今年去年と、教育資料は全て写真を撮り、公開した。また、この資料を使うとこういった授業ができる、という指導案もいくつか公開している。先生から、博物館に「何かやってくれませんか」という問い合わせが多く来る。先生方は博物館で何ができるか分かっていないことが多いので、博物館で何ができるかという案内が必要だと思い、講師派遣の内容など、ホームページを更新した。今後はより詳しく、シラバスに近いものを提示していきたい。

D 委員：

お話を聞いていると、予算を取る大変さを感じている。また、長時間労働の改善も大変だと思う。そもそも、博物館は将来的にどのようなものが求められているか、役割は何なのか、どうしたら存在感を示せるのかを考えてしまう。そういったものが広く世の中に広がっていかない。県内でも知らない人はまだいるのではないか。存在だけではなく、「こういったことをしています」という事が大事で、専門的なことをどうやって広く、わかりやすく伝えるか、アピール力が求められる。相手の目の色を輝かせられるような、面白くわかりやすく伝えていける「人間力」がある、いい人材を排出できると良い。リニューアルについて、どういう風にしたいか、ビジョンがあれば教えて欲しい。

事務局：

広報については、テレビで全国規模で放映してくれれば一番良いと思っている。今、入館者が 50 万人近く入っているが、これが 70 万人くらい来たら対応できるのかということに逆に心配している。冬季の入館者を増やせるように広報していけたらと思っている。リニューアルは、個人的にはデジタルではなく本物を展示していきたいと思っている。老朽化の早いデジタルよりもアナログを重視してリニューアルしていきたい。

D 委員：

意味や面白さをどうやって咀嚼して伝えていけるのかと考えている。自分たちが面白がっているものを伝えると反響も大きい。それをどうやったら実現できるか、予算を集めることができるのかが難しい。

E 委員：

子供会は、児童の加入率が非常に下がっている。子供会を活発化する方法を考えており、自然好きな子どもたちが主体的に参加して活動できる場があると良いと思っている。坂東市は子供会の活動が活発である。ボランティアの力などを借りて、自然系の活動が活発にできないかと考えている。近場では、イノシシと特定外来植物オオキンケイギクの問題が気になっている。どうやって啓発すれば良いか、何か方法が無いかな。

事務局：

子供会は、委員が思われているより多く来ている。その他、小、中、幼稚園もたくさん来ており、子どもに多く利用されている博物館ではないかと思っている。

事務局：

外来種については、当館では特定の地域で調査や対策を行っている者が多い。ハブ・ミュージアムとして、当館に情報を寄せていただけるようにしたい。

事務局：

企画展で外来種については扱わせていただいた。オオキンケイギクの駆除の様子も紹介した。常設展にも一部展示があるが、なかなか伝わらない。

F 委員：

公募委員として、入館者の立場からお話しさせていただきたい。恐竜展が始まったときに、障がい者の方と来館した。その時の感想を聞いたのでお話ししたい。常設展のガイドに参加したところ、解説員が実体験を交えて話してくれて面白かった。常設展の映像は少し古い。セミナーハウスは広くて落ち着く。恐竜展では、恐竜の骨格に、肉が少しでも付いているとわかりやすいのに、とのこと。雨の日で、駐車場から正面玄関からのスロープがすべりやすかった。ロータリーから正面玄関までに雨よけの屋根があると、障がいを持っている方にはありがたい。

事務局：

障がいがある方の団体は、事前に相談を受け、フラットなところ、1階のセミナーハウスから入館することができる。バスもそばにつけて入れるようにしている。

事務局：

通常のおり来館すると、一般と同じになってしまうが、連絡していただけると色々対応ができるので、ぜひご連絡いただきたい。

G 委員：

非常に実のある質の高い議論があった。中期計画 2020 については、2015 の評価は必要だと思うが、評価をしすぎないことが大切。中期計画 2020 は一から作るつもりで、新たな気持ちで作っていただけると良いと思う。